

キャリアとしての 国際公務員

国際機関の組織と活動に関する解説から具体的応募方法

2017.2/17 FRI → 3/3 FRI

Seminar on International Civil Service

19:00-21:00 [2月17日, 24日, 3月3日 全3回]

立命館 東京キャンパス [サピアタワー8F]

募集人員 **30**名

受講料 **15,000**円 (一般、他大学在学中の方)

10,000円 (立命館出身者または在学学生)

受講対象 国際機関を中心に、国際協力のキャリアを目指す
社会人、大学院生、大学生

募集期間 2016年12月5日[月]—2017年1月31日[火]

応募方法 以下の内容をご記入の上、E-mailにてお申込み下さい。

※お申込みメールの件名は「国際公務員セミナー東京 参加申込」とご記入下さい。

- ① 氏名(ふりがな) ② 住所 ③ 電話番号 ④ Eメールアドレス
⑤ 所属(勤務先、学校等) ⑥ 受講希望理由(簡単に構いません)

※立命館大学・大学院 卒業生、修了生の方はその旨をお知らせ下さい。

立命館 東京キャンパス

- 東京駅新幹線日本橋口改札口(徒歩1分)
- 在来線八重洲北口改札口(徒歩2分)



東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 8階
http://www.ritsumeijp/tokyocampus/index_j.html

Theme 開講日程および各回テーマ [全3回]

国際公務員の仕事と職場

(具体的業務と組織文化)

2/17

キャリアとしての国際公務員

(資格と資質、キャリア・ディベロップメント等)

専門性を重視する国際公務員の具体的な業務、即ち、平和、安全保障から経済、社会開発、組織のマネジメントまで多様な国際機関の業務について解説する。併せて、コミュニケーションのスタイル、意思決定の仕方など日本とは異なる国際機関の組織文化についても説明を行う。国際公務員に求められる資質と資格、学歴や実務経験等国際機関に就職するために必要とされる条件について解説する。さらに、国際機関での採用や雇用態、キャリア・ディベロップメントまで具体的に紹介する。

2/24

国際公務員として働いて

概論的な広角度から離れ、より鋭角に国連の中でも開発分野、特にUNDPを例にとり、「入るまで」の具体的なノウハウ、そして「入った後」に焦点を当てる。入るまでの自己アピールと履歴書の書き方、インターンシップ、大学院、語学的重要性、そして入った後での現場での仕事の具体例、組織内でのキャリア開発、個人プレーをしながらの集団行動、組織における人脈形成の重要さとその危険性などの点についてカバーする。

3/3

国際公務員になるために

(応募方法と面接の受け方等)、Q&Aセッション

国際機関への応募の仕方、応募書類の記載方法、面接の受け方など国際機関の採用にかかわる具体的なノウハウについて、国連事務局、その他国連機関等の実例に即して説明を行う。各回の受講生からのリクエストに応え、通常講義終了後に新たにQ&Aセッションを設けます。各回の授業で聞ききれなかった質問を中心に、教員や参加者の交流が深まるセッションを予定している。

voice/

受講生の声

現場での経験がある方から、経験に基づくお話が聞けて良かったです！

国際機関の各々の性質の違いや、実際の採用の話などが聞けたのでとても参考になりました。

国連の機関や活動など具体的に知ることができて良かったです。

CVの書き方を聞くことができて良かったです。

本やインターネットでは知ることができない裏側まで知ることができました。

どのようにして国際公務員になれるのかを知ることができました。

同じ志を持つ方と交流できてとても良かったです。



石原直紀
Naoki Ishihara

Guest speaker プログラム担当者

講師は、国際機関での経験豊かな立命館大学国際関係研究科教員がつとめます。



宮口貴彰
Takaaki Miyaguchi

2017年から国連をリードする新事務総長として、元ポルトガルの首相で国連難民高等弁務官を務めたアントニオ・グテレス氏が就任します。国連憲章では、国際公務員は事務総長にのみ忠誠を尽くす中立な立場であると規定しています。今日の国連にはシリアをはじめとした紛争の解決、難民などの人道危機への対応、パリ協定に基づく新たな環境政策の展開、持続可能な開発目標への取り組みなど大きな課題が課せられています。国連は、世界から集まった人々が力を合わせこれらの課題に挑むユニークでダイナミックな職場です。国際公務員には語学力を含むコミュニケーション能力、専門性を土台とした高度なプロフェッショナルリズムが求められます。このような能力を身に着けるためにはどのような準備が求められるのでしょうか。本セミナーは、職業としての国際公務員、職場としての国連について理解を深めることを目標とします。

いしはら・なおき

立命館大学国際関係学部教授。1983年から3年間日本政府国連代表部で専門調査員として勤務。その後国連事務局に転じ国際公務員として約15年間勤務。国連システムに属する諸機関の経済社会分野の活動調整、カンボジアでの平和維持活動、平和維持活動予算などの仕事に携わる。2005年から立命館大学に勤務し、学部で「国際連合入門」、大学院で「Professional Training」などを担当。

「国際公務員」や「国連」が持つイメージは概してある種の霧がかかったような状態ではないだろうか。自身もインターン、コンサル、そして正規職員として国連を体験して徐々にその霧がなくなって行ったという感覚がある。8年間国連、特に国連開発計画で環境と気候変動分野に従事した。本当に世界中から多種多様な人が集っているなか、いわゆる西洋的な個人プレーや、また日本的な集団行動のような、一種の相反する文化が入り交じっているような組織であったと個人的には感じている。国連のイロハがわからない、という人から、実際に入ってからキャリアパス、勤務体系、文化、家族との両立など、より踏み込んだ話まで、忌憚なく共有させてもらえればと思う。

みやぐち・たかあき

立命館大学国際関係学部准教授。ミシガン大学アナーバー校(理学士・自然資源環境)、シカゴ大学(公共政策修士)、京都大学地球環境学舎博士課程修了(地球環境学博士)。2004年より国連大学に勤務。世界銀行でのコンサルタントを経てJPOとして2006年よりUNDPインドネシア事務所で気候変動担当官、その後UNDPの若手幹部養成プログラムのLEADに合格し、UNDPアジア太平洋事務所、及び国連ボランティア計画で環境・気候変動分野を担当。計8年の国連勤務後、2012年より現職。